様式２

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：経済と社会
部会長名：高橋基樹
作成者名：高橋基樹

概要（2000 字）

１．組織・運営

「経済と社会」を運営する部会の構成員は平成２４年４月現在で３５名で、その所属部局別の内訳は以下のとおりである。

経済学研究科１７名（教授１０、准教授６、講師１）
経営学研究科４名（准教授２、講師２）
国際協力研究科６名（教授５、准教授１）
経済経営研究所３名（教授３）
農学研究科２名（教授１、准教授１）
海事科学研究科３名（教授２、准教授１）

「経済と社会」は年間全１８コマを担当し、経済７、経営２、国際協力３、経済経営研究所１、農学３、海事２を各部局で分担している。部会長、幹事はローテーションで、２００４年１０月の申し合わせにより、経済―国際協力―経済―農学―経済―海事科学の順に各部局から選出している。

２．カリキュラム

「経済と社会」部会が担当する科目は、経済入門（３）、現代の経済（１０）、経済社会の発展（３）、企業と経営（２）の４種類である（カッコ内はそれぞれの授業のコマ数）。どの科目も経済学・経営学を専攻しない学生を対象としている。「経済入門」は主に経済学の基礎を中心に、「現代の経済」は国内・世界経済の現状の理解を中心に、「経済社会の発展」は経済社会の歴史を中心に、「企業と経営」は経済社会における企業の役割を中心に、それぞれの内容が構成されている。個々の授業では、各科目の学習に必要な一般的知識・理解・諸概念の理解等の修得を目指すとともに、各担当者の専門分野にもとづいた個別トピック、具体的な経済社会問題・時事問題についての解説を織り交ぜ、さらに資料を配布し、映像・画像をも媒体として取り入れ、課題を課すなとして、初学者でも興味が持てるように授業形態の工夫を試みている。

３．活動の状況、課題と展望

今年度「経済と社会」部会では、３人の学外の有識者（大学教員）を委員として、外部評価を行った。外部評価では、過去の学生の授業評価アンケートやシラバス、本部会の自己点検評価報告等を基に議論を行い、外部評価委員から、教養原論としての上記４種類の授業のあり方について、多くの有益な指摘を受けた。その中で、とりわけ、学生に聞かせるための講義という基本を忘れず、学生の評価や要望をフィードバックする仕組みを検討すべきこと、教養教育においてこそ知的な積極性を涵養することに重点を置くべきこと、学生のニーズに合わせた授業の種類を供与すること、難しくとも大学らしい各教員の専門を生かした授業を行うべきことなどの指摘は、本部会の課題を自己認識する上で大変参考になった。また、ＦＤの一環として、「現代の経済」（滝川好夫教授担当）のピアレビュー＝授業参観を行った。

今後は、外部評価等で得られた教訓や示唆を部会内で共有し、各授業で生かすために、いっそうの努力を重ねていくべきであろう。

様式２（続き）

項目・観点ごとの記述

基準５　教育内容及び方法

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

はい

経済・経営に関する基礎、歴史、現実の分析などを配置し、学生の選択肢が幅広くなるよう、４種類の科目の計 18 授業を開講している。学生に現実社会の経済的問題に目を向けることの大切さ、面白さを伝えるようにしている。教員側の専門性も考え合わせながら、授業科目の構成が、あるべき学生の選択の幅を保証するものとなっているかどうかを、できる限り考慮する必要がある。

根拠資料　シラバス、授業中の配布・映写資料、教科書

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

（観点に係る状況）

はい

「経済と社会」の内容に照らして、講義のみで行っている。ただ、パワーポイント・ＤＶＤ等の映写、資料の配布を通じて、より質の高い媒体を通じて学生に知識を伝えるように心がけている。また必要に応じて、ティーチング・アシスタントを雇用している。

根拠資料　シラバス、授業中の配布・映写資料

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

はい

シラバス・授業計画を年度当初に作成して公開し、学生にとって授業の内容・進捗についての見通しがつけられやすいようにしている。授業の内容を反映した試験、課題、小テスト、レポート等を課し、内容の修得に応じて成績が決まるよう配慮している。また、学生に授業成績評価について予め方法を明示し、試験を厳正に実施している。

根拠資料　シラバス、配布・映写資料、試験問題、課題

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。
（観点に係る状況）
はい
公開したシラバスに沿って、授業を進めるようつとめている。

根拠資料　シラバス、配布資料

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。
（観点に係る状況）
はい
担当教員各自が、学生の予備知識・基礎学力については、授業において確認し、質問を受け付け、配布資料等で補いながら進めるようにしている。

根拠資料　シラバス、授業での配布資料

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。
（観点に係る状況）
はい
シラバスおよび授業中の説明において成績評価・基準・方法について明示をし、それにしたがって、厳正に成績判定を行っている。

根拠資料　シラバス、成績評価の分布表、答案、提出課題

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。
（観点に係る状況）
はい
成績評価については、学生からの異議申し立てを認めている。加えて、授業評価アンケートを通じて学生にコメントをさせるとともに、教員からそれに対応した回答を提示するこ

とを奨励している。

根拠資料　授業評価アンケート（学生からのコメント）、コメントへの回答

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②：　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

（観点に係る状況）

はい

学生の評価については、総合的には「有益であった」という答えがどの分野においても半数以上に達していた。理解度については必ずしも高くない授業があるが、担当教員の専門性に基づく授業を行ったことが要因と考えられ、大学における研究とは何かを示し得た、という意味では意義はあったと考える。

根拠資料　授業評価アンケート

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

はい

講義形式で授業を行うが、基本的に学生が予習、復習を行うための環境は整っていると考えられる。

根拠資料　シラバス、図書館所蔵図書データ

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習，課外活動，生活や就職，経済面での援助等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目，専門，専攻の選択の際のガイダンスが適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

はい

教育全体における教養原論の位置付けについての説明は各学部に依頼して行っている。各授業の第１回目には、授業の概要についてオリエンテーションを行い、学生の選択のための参考情報を提供している。

根拠資料　シラバス、授業での配布資料

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

はい

シラバスにおいて担当者のオフィス・アワーと連絡先を学生に周知している。また、学生からの授業中の質問を受け付け、担当者によっては、授業後に質問時間を確保し、メールによる質問も受け付けている。

根拠資料　シラバス